

令和元年 12 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

1 2 月の業種別景況の前月比 D I 値は 1 4 業種の内、好転が 2 業種、前年同等が 8 業種、悪化が 4 業種で、全体の景況感 D I 値も 1 1 月より悪化している。

食料品、サービス業では、祝日減少による稼働日の増加や天候に恵まれ、売上が増加した模様であるが、卸売業、運輸業からは、冬物商品の動きの鈍化や輸送量の減少により、売上が減少したとの報告である。

山口県の中小企業は、深刻な人手不足が続いており、人材確保に苦勞している。また、消費税による消費の低迷を感じている。

山口県の主要指標 DI 値 (令和元年 12 月末現在)

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)

前年同月比は、好転： 1.3% 悪化： 37.5% DI 値： ▲36.2% ポイント

売上高 (< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)

前年同月比は、増加： 18.8% 減少： 36.3% DI 値： ▲17.5% ポイント










収益状況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)

前年同月比は、好転： 12.5% 悪化： 31.3% DI 値： ▲18.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況) (令和元年 12 月末現在)

				
30 以上	30 未満～ 10 以上	10 未満～ ▲10 以上	▲10 未満～ ▲30 以上	▲30 未満

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲28.6	▲50.0	▲66.7	▲50.0	▲16.7	▲33.3	0.0	▲33.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業	全 体
▲60.0	▲44.4	▲100.0	▲18.2	▲10.0	▲57.1	0.0	▲38.3	▲36.2
								

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	消費増税後、菓子は軽減税率であるにも係らず売上が低下している。さらに包装資材は10%で負担が増加、経理面においても負担感が強い。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	昨年に比べ、祝日が1日減少し稼働日が1日増加したので、売上が増加した。年末のお休みは1日早くから始まるが、影響なし。	パン・菓子製造業 下関市
	12/25 時点の売上は対前年同月▲2.5%。平成天皇誕生日が祝日でなくなり3連休にならなかったため、この週の売上の減少が要因。合併処理浄化槽の改修やトイレ照明の交換など施設補修関係の支出が増えてきており、年度末までに約2,200万円の改修工事を予定している。	水産食料品製造業 萩市
	10月以降、消費低迷があるように感じる。特に関東、関西圏以外が低調。運送費の値上げ要求が高まり、非常に困っている。食品の値上げも続いているが、消費に結びつくかは不透明。	水産食料品製造業 下関市
	2019年は大型台風の襲来やゲリラ豪雨などにより、地球温暖化の影響で企業経営における天候リスクがさらに高まった年となった。突然の自然災害へ対応できるような、農産物の売上に関する保険制度のような仕組みづくりが必要になってきている。COP25において、日本は、アメリカと共に、二酸化炭素排出規制に関する取り組みを加速させるように勧告を受けている。特に、日本は、石炭や石油などの化石燃料による発電が8割を占めるなど、国際社会の取り組みと大いに逆行している。地球温暖化をこれ以上進めないためにも、火力発電を抑制し、安全な原子力発電の再開や自然エネルギーを利用した発電に取り組むことにより、二酸化炭素を排出しない社会づくりが必要となる。また、電気自動車の普及対策や水素ステーションの充実などが必要になってきている。	精穀・製粉業
繊維工業	12月11日、ベトナム人技能実習生が4名来日。現在は、中国人26名、ベトナム人26名、合計52名である。	下着類製造業
	技術力のあるところは増収が見込まれるが、業界全体としてはモノが売れない状況が続いている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	来年1月からの発注分が年末になって動き出した。年度末に向けての受注が期待される。	外衣・シャツ製造業 萩市
	順調に仕事量が増えている。令和2年5月位までは、この状態が見込める。	外衣・シャツ製造業 山陽小野田市
木材・木製品	商品の動かない1月・2月の寒い時期をどのように乗り切るかが、木材業界の一番の悩みである。	製材業・木製品製造業 岩国市

	共同販売事業にあたる公共建築物関係の新規受注なし。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	年末需要により、各社昨年並みの受注量は確保できた模様。	印刷 下関市
	年賀状の件数も年々減り、年末年始のチラシも激減、例年になく静かな年末であった。	印刷 山口市
窯業・ 土石製品	12月の出荷量は激減。雇用人員は減少。求人をして いるものの人手不足が進んでいる。 (平成30年11月) 骨材 85%、路盤材145%、再生材101% ↓ (令和元年12月) 骨材111%、路盤材 74%、再生材 81%	砕石製造業
	出荷量は、前月比98%、前年同月比109%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	生コンクリート製造業
	消費増税の影響は切り替え時に若干あり、どうなるか とと思っていたが、意外に影響はなく、年末にも令和2 年の仕事の依頼が来ている。令和2年はうるう年の石 材業界にとっては厳しい年になるだろうが、近年では その意識も薄れてきているのではないかと思う時があ る。	石工品製造業
	萩市内の小売店売上は昨年と比較し減少。ギフト・卸 関係・百貨店の受注は昨年と比較しやや減少。萩・明 倫学舎の売上げは昨年と変わらず。10月1日から消 費税10%になったことに伴い「キャッシュレス・消 費者還元事業」がスタートしたが、このところキャッ シュレス(カード・QR)決済の比率が大幅にアップ(組 合員小売店で以前の10%から60%に)した。11 月28日～12月4日に名古屋で行われた「やきもの ワールド」(当組合から2社が出店)でも、このキャッ シュレス決済の比率が20%を超えた。来年開催され る催事・萩焼まつりに向けて、さらにキャッシュレス 化を進める必要があると思われる。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	全体的に11月と同様で、変化はなかった。	下松市
	景況感は組合内部で若干の温度差があるが、11月と ほぼ同様。自動車関連は再び横ばいの状況。大型構造 物の製作は年度内順調。ベトナム、マレーシアなど東 南アジアの関係は、親会社の応援もあり生産量がアッ プしている。アメリカ大統領選の関係で、米中の貿易 摩擦の緊張も若干緩んだ様子で、これが日本の景況に プラスに作用してほしい。	防府市

	<p>技能実習生受入をしている食肉加工、惣菜、自動車関係等大半の職種で業績は好調。米中貿易摩擦の影響か、半導体関連で業務量減少等不透明な状況が続いていたが、既に人員の確保に舵を切り始めている。要望が多い介護職については、他の業種に比べ準備期間が長くかかるため継続的な対応が必要で、要望に応えるには人材の確保に時間が必要である。3号移行者の入国も順調。即戦力として活躍している。特定技能については手続きが不明な点が多く時間が必要なことと、地方での人材確保に難点があり、今後の対応については慎重を期す必要がある。</p>	宇部市
輸送機器	<p>令和元年は人員不足が改善せぬままの1年であった。消費税10%の増税も影響が出てきている。</p>	船舶製造・修理業
	<p>鉄道車両では令和2年の春位までかなり短納期の作業が続く。半導体は右肩上がりの高い作業量水準が継続している。産業プラント部門が少し減少気味ではある。人材確保と働き方改革の工夫を課題としている。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>年末であるので在庫が減少し、出庫が増加。売上は対前年同月比で▲3%の減収となった。在庫数も▲4.2%減少している。令和2年1月の海苔の在庫に期待する。</p>	乾物卸売業
	<p>12月は最も繁忙期であるにも関わらず、ふく、鮮魚ともに単価が高かったため、売れ行きが大変悪い。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>暖冬により冬物商品の動きが鈍い。</p>	各種商品卸売業
小売業	<p>組合員の売上は低迷している状態で客数も減っており、この客数減少が売上減少の要因と考えられる。また、暖冬のせいでクリームなどの高額商品の売上が悪いことも要因の一つであると思われる。以前は、化粧品業界は増税や不景気に強いと言われていたが、今回は相違している。11月に熊本県で全国大会があったが、各メーカートップの今後の方向性などのお話で盛り上がりました。</p>	化粧品小売業
	<p>12月に入り、液晶テレビ、エアコンの動きが良くなった。</p>	機械器具小売業
	<p>物販業・飲食サービス業とも小売業界は総じて良化。歳末セールなどの共同売り出しの機会は少なくなったが、消費動向は向上する時期。軽減税率・キャッシュレス・ポイント還元ショックもやや和らいだ。良い流れで新年を迎えたい。</p>	各種商品小売業 岩国市
	<p>毎月の売上は、年間を通じて前年同月比マイナスを記録した。来街車輛が急激に減少した。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>12月9～20日に「大歳の市ガラポン抽選会」を行い盛況の内に終わった。最終日の予定時間より1時間以上も早く玉がなくなったため、終了となるほど販促に繋</p>	各種商品小売業 下関市

	<p>がったのではないかと思う。</p> <p>令和2年1月31日でショッピングセンター全体が閉店する。店じまいセールを実施し、店舗によっては商品が殆ど無くなる状態であったが、半額セールなどに行っているため売上は前年の半分以下であった。</p>	<p>各種商品小売業 長門市</p>
商店街	<p>年末の人出は若干増加したように思うが、活性化には程遠い。</p>	<p>宇部市</p>
	<p>歳末であるのにアーケード内の人通りが少ない。青果店では少し多くなっているが、他の店では厳しい模様。「店に来て参考に写真を撮り、自宅でインターネットで買い物をする」という話が数店舗であり、小売店は大変と話している。</p>	<p>萩市</p>
サービス業	<p>改元の年は国内的に新しい年のスタートということで色々な行事があり、また、オリンピックの前年ということもあって、スポーツ関係の話題が多かったように思う。近年、世の中の仕組みが凄いい勢いで変わっており、美容業界はそれに合わせるのではなく、一步先を行く気持ちで対応していかなければと思う。</p>	<p>美容業</p>
	<p>消費増税、天候等の変化などで低迷している状況。</p>	<p>理容業</p>
	<p>10月の消費増税による新車販売が大きく減少している。過去の増税の時のような駆け込みによる需要がほとんどなかったことから、販売事業者は頭を抱えている。また、この販売台数の落ち込みが3年後の車検台数減少となって整備業界に降りかかってくることになり、これが懸念材料となっている。</p>	<p>自動車整備業</p>
	<p>人手不足が継続中。</p>	<p>スポーツ・健康教授業</p>
	<p>12月の売上は、3年ほど前を境に大きく減っている。詳しい原因は不明だが、秋の衣替えの全体量が減っていること、家で洗える学生服が多くなったことが原因かと思われる。</p>	<p>普通洗濯業</p>
	<p>組合員15施設の比較では、宿泊人員で対前年同月比90.4%、売上額で98.6%と前年割れとなった。今期脱退の2施設を含むと宿泊人員で対前年102%、売上額で95.4%となる。前年脱退の2施設が昨年並みの宿泊人員を確保したと想定すると、湯田温泉としては宿泊人員は前年同月比プラスで推移したと思われる。</p>	<p>旅館業 山口市</p>
	<p>売上高は前年比同額と予想したが、穏やかな天候が続くも、地方景況の鈍化により消費拡大に繋がらない。施設老朽化による修繕費の増加が懸念される。健康志向と温泉利用の理解はメディアに取り上げられる回数は増加したが、国内の競争も激化している。</p>	<p>旅館業 長門市</p>
	<p>天気恵まれて、工事関係者及び観光客も増加している。宴会は減少している。</p>	<p>旅館業 下関市</p>

	年末の団体客の予約が増加。	飲食業
建設業	中電への工事申請152件(当支部134件)、前年同月111件(同93件)。太陽光発電への申請24件(前年12件)、オール電化申請100件(前年58件)。LED街路灯への切り替え・新設申請17件(前年14件)であった。	電気工事業
	現在の工事量はまずまずだが、令和2年の前半は減少が見込まれる。この1、2年前から完成工事高及び利益の決算額が低下している事業所が多い。技能者が全国レベルで平成7年と比較して約7割減少しているものと予測される。	左官業
	暖冬で順調に仕事をこなし忙しくしている。12月は少額な発注があったが、人手不足で手が回らない。職業訓練校卒業の就職者も転職をしてしまい、3K職種を嫌う傾向は教育によるものかもしれない。	管工事業
	これまでは、年内に工事完了の要望が多かった年末だが、例年になく仕事量が少なく、様変わりしている。年明け1～2月は仕事量が減少する時期となるため、年明けの工事量確保に頭を悩ませている。	屋根工事業
	一部地域は繁忙期であると話しているが、多くの組合員は仕事が一段落し、工場稼働率も下がっている様子。	鉄骨・鉄筋工事業
	地区の建設業者においては倒産・廃業等の話題を聞かないので、そこそこ頑張っていると思われる。低迷している現在の状況を維持できるのであれば、過去の好景気の時に将来を考えて、もっと組織の再編等をやるべきだったのかもしれない。入職者の話題は耳にしなないので、建設業は特に高齢化が進んでいるように思われる。	土木工事業 柳井市
12月受注高は対前年同月比65.1%。今年度の累計は対前年比88.9%。	土木工事業 萩市	
運輸業	輸送量はオリンピック関係の資材搬入等がめっきり減少。長距離運送が目立って減少しているが、オリンピック関係が最大の原因の一つであると思われる。輸出、国内輸送とも減少し、前年同月比15%減少している。中小運送業者の経営は苦しく、働き方改革で売上が一層の減少傾向である。燃料費は1円の値上げとなり、せめて軽油引取税の見直しでも有ると良いとの声が大い。	一般貨物自動車運送業 下松市
	売上高は、前年同月比15%程度の減少の見通し。自動車関連については総じて芳しくない。下期はこのような状況が続く見通しであり、期を通して前年割れの様相である。	一般貨物自動車運送業 防府市
	年末年始の荷動きの増加がみられるが、例年程多くはない様子である。働き方改革の影響もありお客様の物流もストップしているところが多い。年末にかけて人	一般貨物自動車運送業 宇部市

	員が少し減少している。喫緊に人員補充が必要である。	
	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲8.5%（令和1年11月1日～令和1年12月20日分）。11月1日～30日分は▲10.3%、12月1日～20日分は▲6.2%。当組合の取扱いタクシー事業者は、光市、下松市、周南市、防府市の地域。11月分については、周南▲7.7%、下松▲13.0%、光▲12.9%、防府▲18.5%で、組合員の全域では▲10.6%、地区外（員外）▲4.9%、合計▲10.3%（▲2,640千）円。得意先別の増減については、月別や個別企業や部門によっており、全体として大幅な減少になっているといえる。消費税増税に伴い基本料金等が改正されたが、取扱い金額の総額だけでなく、チケット1枚当たりの平均利用金額（税込み）も下がっており（前年1,973円 今年1,946円）個人消費の冷え込みの現われと思う。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上がり（前月440.0\$/トンが今月450.0\$/トン、前年470.0\$/トン）、輸送用バンカーC重油は下がり（前月591.0\$/トンが今月580.0\$/トン、前年462.0\$/トン）。為替は円安（前月109.15円/\$が109.905円/\$）です。燃料単価は前月より+1.5%上昇したが、前年12月分比は▲2.9%と少し下がっている。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足。平成20年2月以来のタクシー運賃改定があり、令和2年2月からの運賃改定が認可された。当面利用が減少するかもしれないが、乗務員不足の対策としても必要な対策と思う。</p>	一般旅客自動車運送業
	対前年同月比としては、今月も取扱高は、若干多くなった。	港湾運送業
その他 非製造業	先月末から先日にかけて、当組合の実習生17名が入国。今回より県外へ配属する実習生がいるので、連絡調整等を密にし対応をしていきたい。	介護事業